

## 「建設キャリアアップシステム」ってなあに……………シリーズ②

(深刻化する人手不足) この20年で建築大工は半減し2015年には35万人に、2030年には21万人にまで減少すると見られています。建設業全体でも、高卒者の約半数が3年で離職するなど、若年入職者を確保し、若い職人が働き続けられる環境を整備することが急務となっています。これらを背景のひとつとして、建設キャリアアップシステムは今年4月から運用が始まりました。

(技能者情報の見える化) 建設技能者の能力や経験を正当に評価し、待遇改善につなげる環境を整備するために、1人ひとりの資格、社会保険の加入状況、現場の就業履歴等の情報を登録・蓄積して「見える化」する仕組みを官民一体となって導入したものです。

(5年で全ての技能者が登録) 建設業界全体として、資格取得や技術研鑽など努力をしている技能者をしっかりと評価することを将来の担い手にも発信することで、安心な入職へと

促す重要なシステムとして期待されています。国は初年度で100万人、5年で全ての技能者（330万人）の登録を目指しており、大工等技能者を社員化している工務店は、その登録が必須となりつつあります。

(施工能力も見える化) 建設キャリアアップシステムによって蓄積される情報は、技能者個人を評価するだけでなく、工務店等の施工能力を「見える化」して、優れた建設技能者を良好な環境で雇用する会社の評価にもつなげていくことが国土交通省を中心に進められています。

(企業の評価項目) 見える化される企業の評価項目としては、所属する技能者の人数・評価、無事故期間など安全性、研修制度など人材確保・育成、経営状況、表彰・工事実績、社会保険加入状況など待遇・福利厚生、災害復旧など地域貢献などが検討されています。

(つづく)

### 維持管理計画講習会の開催告知

JBNレポート5月号でご紹介した、リフォーム現場のトラブル回避ノウハウ（準備編）同時に耐震リフォーム + 断熱リフォーム、住まいの健康ハンドブック & 健康計画表を使用した維持管理計画講習会が8月末から開催されます。今後のリフォーム需要は、資産価値の維持向上を目的としたメンテナンスや長寿命化リフォームが主体となり、工務店が行う維持管理の必要性があらためて重要視されている現状がございます。この講習会を受講して適切なリフォームと維持管理計画の手法を学びましょう。

詳細はJBNのホームページに掲載致します。  
ぜひご参加の程お待ちしております。

佐賀県	8月27日（火）
滋賀県	9月 2日（月）
徳島県	9月 4日（水）
山口県	9月 9日（月）
福井県	9月12日（木）
秋田県	9月26日（木）
栃木県	9月27日（金）



お願い：月々のJBN ReportやJBNホームページ等の情報提供およびJBNの各種サービスなどに関するご意見、ご要望をお気軽にメールやお電話でお聞かせください。



JBNは様々なご相談（技術、法律、支援等）をお受けしております。

ホームページ（トップページの最下欄）のお問合せフォームをご利用いただけます。下記へお問合せください。

# JBN REPORT

Japan Builders Network

2019 vol.37  
8月号

地域に必要とされる工務店のための情報誌

## JBNの基本理念

「私たちJBN・全国工務店協会は、全国の地域工務店とその関連業界の持続的発展に尽くし、地域の住生活環境の向上を通して、社会に貢献します。」

## 全国会員交流会の基調講演および分科会テーマが決まりました

11月26日（火）14:30からのJBN全国会員交流会式典に続いて、16:00からの基調講演では一般財団法人日本建築センターの橋本公博理事長に「SDGsが拓く工務店経営」と題して講演頂きます。人々と地球の持続的な発展のために達成すべき課題と具体的な目標であるSDGs。地域工務店が取り組むべき意義と方法、工務店経営にもたらす効果を分かりやすくお話しいただきます。  
(会場：シアーズホーム夢ホール)

その後、18:30から20:00までホテル日航熊本を会場として、JBN会員交流のための懇親会を開催いたします。

翌27日（水）の委員会分科会では、次のテーマと講師を予定しています。

	基調講演・委員会分科会	テーマ	講 師
11月26日(火)	基調講演 16:00 ~ 17:00	SDGs が拓く工務店経営	一般財団法人 日本建築センター 橋本 公博 理事長
	中大規模木造 9:00 ~ 10:30	地域工務店による買取型災害公営住宅団地建設から中大規模木造建築への取組み 一事例集の紹介と買取型災害公営住宅団地建設の取組み	熊本県庁 土木部建築住宅課 小路永 守 営繕課長
11月27日(水)	国産材委員会 9:00 ~ 10:30	『木と人・森と人のつながり』 ～木育で育む豊かなこころと地域のくらし～	熊本大学教育学部技術教育 田口 浩継 教授
	既存改修委員会 9:00 ~ 11:00	温度と健康から考えるリフォーム	芝浦工業大学建築学部建築学科 秋元 孝之 教授
	環境委員会 11:00 ~ 12:30	各社が目指す持続可能な経営目標	法政大学 デザイン工学部 建築学科 川久保 俊 准教授
	大工育成委員会 11:00 ~ 12:30	「地域から全国へ つながる大工育成の力」	大工育成委員及び会員工務店・連携団体
	次世代の会 11:00 ~ 12:30	見送られた省エネ義務化 工務店の進むべき道は？	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 前 真之 准教授



一般財団法人 日本建築センター  
橋本公博理事長

11月26日（火）午後の式典、基調講演および懇親会、27日（水）の分科会に加え、25日（月）のJBN会員交流ゴルフ・コンペ、27日（水）午後の「地域工務店による買取型災害公営住宅から木造応急仮設住宅の利活用」視察および同日午後「熊本城見学」をオプションとして準備しています。

交流会（式典・基調講演）、懇親会、分科会およびオプションのご登録申込は、別途お送りする登録申込用紙によりお手続きください。

## JBN第12期連携団体事務局長会議(第1回)報告

7月19日金曜、都内で令和元年度1回目となる連携団体事務局長会議が、約70名の参加を得て開催されました。先の代議員総会で承認された「第11期事業報告」や「第12期事業計画」等が説明されるとともに、組織強化の取組みや会員支援のあり方など、幅広く議論されました。次回第2回会議は、令和2年3月17日火曜開催の予定です。



第12期 JBN連携団体事務局長会議第1回

## 長期優良住宅の普及策で国交省と意見交換

7月10日、第12期第2回情報調査室会議が八重洲ホール（東京都中央区）で開催されました。今回は、国土交通省住宅局住宅生産課の遠山明木造住宅振興室長、阿部一臣企画専門官らにお越しいただき、国土交通省の「長期優良住宅制度のあり方に関する検討会」の中間とりまとめを踏まえた意見交換を行いました。

同検討会では、工務店など中小事業者の認定取得促進策が検討課題のひとつとなっており、当協会も意見を提出しました。今後の具体的な方策として、工務店向けには講習会の開催や、技術基準や仕様例、申請サポート事業者の活用法などをまとめたパンフレットの発行、消費者向けのPR動画といった案が示されました。

特に、動画に対する期待は大きいようです。会員からは「消費者のニーズが高まることで認定取得率も上がる」「消費者の目につきやすい形で公開してほしい」「自社のツールにできるよう、二次使用を許可してほしい」といった声があがりました。他にも、現行の補助金や税制のほかに、消費者が長期優良住宅に利点を感じられる優遇制度の創設など、さまざまな意見が出されました。



国土交通省住宅局との意見交換

### 委員会紹介

## 第5回 大工育成委員会

杉山真一 委員長

## 大工育成の「JBNスタイル」を確立する



杉山真一委員長  
(鳥坂建築(株)社長)

工務店には欠かせないのが大工の存在。高齢化や若年入職者の減少から、大工人口が減っていく中、当協会も2016年にワーキンググループを設置し、大工育成への取り組みをスタートしました。昨年度からは委員会に昇格し、杉山真一委員長（鳥坂建築(株)社長）以下8人の委員で、

JBNらしい大工育成スタイルの確立を目指しています。

大工育成というと技能、それも墨付けや手刻みのような伝統的な技を連想するかもしれません。ですが、プレカットや電動工具も普及した今、それらを無視することは現実

的ではありません。

杉山委員長の目標は「どちらにも対応できる、応用力を持った大工を育てる」こと。新しい素材や工法、性能向上、応急仮設住宅、中・大規模木造建築——確かな技能を持ち、現代のニーズに応えられる大工を増やすことを目指します。

2017年には『JBN大工育成ガイドライン』を制定しましたが、これがただひとつの正解、というものではありません。そのため、各地の連携団体が展開している育成プロジェクトや、大工育成の実績を持つ工務店の事例を収集、蓄積することにも取り組んでいます。「さまざまな事例を参考にして、大工育成の“JBNスタイル”を確立したい」（杉山委員長）。

同時に、若者が大工になりたいと思う環境づくりも重要な課題です。杉山委員長は「大工は魅力的な仕事。工務店が、魅力を十分に伝えきれていないことが問題」だと捉え、収入や待遇も含めた「今の大工」の魅力を発信していくことにも取り組む考えです。

若い大工を育て、増やしていくかなくては、工務店や日本の家づくりが危機的な状況に陥ることは目に見えています。「今取り組まないと状況は変わらない」のです。大工育成の志を持った工務店の参加をお待ちしています。

## JBN連携団体・工務店紹介

### 地域特性から生まれるニーズを活動に反映 ちば木造建築ネットワーク



事務局の七海喜代三さん（秋山木材産業㈱）  
と竹脇会長（写真右）

ちば木造建築ネットワークは2013年5月、千葉県の新たなJBN連携団体として発足しました。現在は43社が所属し、工務店の資質向上や連携強化に

タッフの対応力向上は重要です。竹脇拓也会長（㈲タケワキ住宅建設社長）は「お客様の気持ちを汲み取るには、話を聞くスキルが必要」といい、地域の特性から見ても女性人材の育成は重要と考えています。

大工もまた、リフォーム、特に耐震改修や断熱改修には不可欠な存在です。2018年度は、10代から20代の若い大工を中心に、全5回の講習会を開催。手を動かしながら大工を取り組むと同時に、行政や消費者に対する活動も展開しています。

千葉県は、経済成長に伴い開発された住宅地も多く、年月が経過しリフォームが必要な住宅が増えています。また、中古住宅を購入してリノベーションする人も増加傾向にあります。拡大するリフォーム需要に対応するため、同ネットワークでは2018年から女性活躍の会、大工育成の2事業への取り組みを始めました。

リフォームの顧客は女性が多く、同じ目線を持つ女性ス

タッフの対応力向上は重要です。竹脇拓也会長（㈲タケワキ住宅建設社長）は「お客様の気持ちを汲み取るには、話を聞くスキルが必要」といい、地域の特性から見ても女性人材の育成は重要と考えています。

実技の指導は、千葉土建一般労働組合の協力を得ており、災害時の木造応急仮設住宅建設の体制整備にも貢献する活動にもなっています。

消費者向けの活動も“ワイン教室”や“コーヒー教室”など、一風変わったイベントを開催してきました。暮らしや生活に密着したものを取り上げることで参加意欲を高め、結果的に工務店の存在を知ってもらえばいい——そんな狙いが込められた活動です。

### デザイン+性能で評判の家づくり (株)中央建工（千葉県四街道市）



ちば木造建築ネットワーク会員の(株)中央建工は、年5棟前後と小規模ながら建築家とのコラボレーションによる高性能住宅を手掛ける、実力派の工務店。今は、次期社長の元野大輔さんが同社の家づくりを担う存在です。

元野大輔さん

小さくても設計は社内で、という工務店も多いですが、元野さんは「問題点に対する解決策の引き出しが多いのは建築家」と、専門家の力を最大限に活用することで顧客に「いいもの」が提供できると考えています。もちろん丸投げではなく、顧客と建築家の「橋渡し」ができるよう心掛けています。

元野さんは、2013年に同社に入社するまではクロス職人として働いていた経歴の持ち主。化学物質の影響か、体調を崩したことあって、無垢材や漆喰、紙など自然素材を使

うことも信念のひとつです。デザイン、素材、性能のすべてを高いレベルで融合させた家づくりは顧客満足度も高く、「お客様からクレームが入ったことは一度もない」と元野さんが豪語するほど。“おしゃれな家を造る工務店”と認知されるようになっており、地域の評判も上々のようです。

千葉の中心部、そして東京都内へのアクセスも良い四街道市。現在も開発が進んでおり、ローコストの建売住宅も多く建つ中、元野さんは「四街道の人たちに良い家、子どもたちに引き継げるような家を提供したい」と言います。地域を大切にするその姿勢で、同社の新しい時代を担ってほしい人材です。



新築の施工事例



リノベーションも新築と見間違ふほど